

皆さま、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

私たちは本日のイエスのたとえに、3つの大切な教訓を見いだすことができると思います。第一は、「花婿が必ず来る」と言う確信です。十人の乙女たちは、この確信をもっていたからこそ、ともし火を持って待ち、到着が遅れても慌てることもなく、むしろ眠ってしまったのです。彼女たちのこのような確信にもかかわらず、花婿が到着したのは「突然」でした。これが第二の教訓だと思います。ですからイエスも、このたとえの結論として「目を覚ましていなさい。あなた方は、その日、その時を知らないのだから」と強調しています。第三の教訓は、賢い乙女と愚かな乙女の違いについてです。「花婿だ。迎えに出なさい」という叫び声がした時、油を用意していなかった愚かな五人の乙女たちは、用意していた他の乙女たちに「油を分けてください」と願ったのに叶えてもらえなかったため、披露宴会の喜びに入ることはできませんでした。

それではこれほど肝心の「油」とはいったい何でしょうか。本日の御言葉の典礼によると「神の知恵」にほかなりません。ともし火は、油が尽きると消えます。私たちの生活も、神の知恵に支えられ、生かされなければ、必ず消えてしまいます。しかし、油がある限り、ともし火は燃え続けるでしょう。

要するに、本日の「福音」の教えはこれだと思います。将来に希望を持ってない時、人は今の時を創造的に生きることができません。待ち望むことにおける逆説とは、明日を信じることでできる人々は、今日をよく生きることができるということだと思います。

